

国際交流員ウルリーケ・シュラックの 今月のウリ場



Vol.19
日本の美しさの一つ
：「無」
私大好きな
趣味について

皆さんこんにちは、お元気ですか？4月に入っても変更なく、同じ場所で活躍している人達も、新生活にとっても忙しくしている人達も、たくさんいると思います。皆さんが健康であることを祈って、今年度もどうぞよろしく願いいたします。

最近、私の日本に残る期間が少しずつ少なくなり、今まで日本で過ごしたことを振り返る瞬間がよくあります。特に、日本に来て初めて知って、日本で練習を始めた趣味のことです。ご存知の方も何人かいるかもしれませんが、私が石橋弓道場で修業して3年目となります。

弓道を始めたきっかけは、ドイツ語講座の受講生に弓道をやっている人が1人いたことです。それまで剣道・空手・柔道などは聞いたことがありましたが、弓道のことを初めて知りました。

日本の武道について何も知らず、2006年の夏頃始めました。道具はもちろん、練習方法、射法八節（しゃほうはっせつ＝動作を表す専門用語）、道着や袴（練習着）など全く分かりませんでした。すぐに分かったのは：奥深いということ…簡単ではありません・弓のことをぜひ勉強したいということでした。最初は弓だけを持ち、長い間弓の持ち方などを練習しながら、弓道場の皆さんにとっても優しく説明していただいて、弓だけでの日々の訓練がかなり疲れました。やっと弓と矢、両方同時に使うまでに2か月間かかりました。的（まと）の前立つには、さらにあと2か月間。基本体型を勉強するのは重要であり、体だけで覚えるだけではなく、体と心一両方の動作を正しく行わなければなりません。それは生氣体（せいきたい）と言います。

武道の一つとして、礼で始まり、礼で終わるスポーツであり、身体的にも精神的にも落ち着くことができ、1人でも、年をとってもでき、何よりも自分の体や心をよく知ることができることは、練習するたびに素晴らしいことだと感じています。それに、日々の練習が成功であるかどうかを確認できる方法：審査があります。年に4回行います。審査委員の先生5人の前で、審査方式で（退場から後退まで細かく決まっている）2本射て、学科試験もあります。朝早く始まり、夕方までかけて、緊張感が頭のとっぺんから足のつま先まであり、とても疲れる1日です。残念ながら、私が最後に受けた審査結果は2回続けて残念だったけれど、今年の5月にまた挑戦して、合格したいと思います。

参段の難しさは：「射型定まり、体配落着き、氣息（きあい）整い、射術の運用が法に従い、矢飛び直ぐ^的の中やや確実な者」（弓道教本第一巻より）

このとおり、体や心の統一が重要です。それができたかどうか参段の審査で確認できます。

しかし、たまたま知らないうちに神様が下りてきて運や能力をたっぷり与えてくれたときもあります。そういう不思議なことを私は経験できました。今年の下野市弓道部の初射会で優勝しました。まだまだ感動は続くでしょう……



優勝決定戦



表彰式

国際交流員ウリさんの びっくり箱 第14回

ペルー料理 ～ペルーのお話～

- 講師 矢治・ジョエル(ペルー・リマ出身)
- 日時 4月19日(日) 午前11時～午後1時
- 会場 保健福祉センターきらら館
- 定員 25名(親子可能)
- 参加費 大人 500円
子ども(5歳～小学生) 250円
- 募集期間 4月8日(水)から17日(金)まで
- 問い合わせ先 生活安全課 ☎40-5555
Mail 50002@city.shimotsuke.lg.jp
(名前、住所、電話番号をお伝えください)